

## 北浜の洞門 ～白浜砂岩が織りなす奇岩の数々～ (白浜町)



北浜の洞門

南紀白浜の地は温暖で、道後、有馬に並ぶ日本三古湯の一つ白浜温泉、真っ白な砂浜の白良浜、千畳敷や三段壁などの素晴らしい自然遺産を有する日本有数の観光リゾート地。これらの自然の恵みは太古の昔の地殻変動がもたらしてくれたもの。この辺一帯は地質学的に白浜砂岩泥岩で覆われている。そして砂岩泥岩の長年の風化で独特の風景を見ることが出来る。春分の日、秋分の日前後のみ海蝕洞穴の中に沈む夕日が見られる円月島も絶景だが、この円月島の近くにある「北浜の洞門」も自然の力によって穿たれた海蝕洞で圧倒される。

この洞門は、近くに南方熊楠記念館、京都大学白浜水族館があり丁度施設の北側に当たる海岸にあるものの、そこからは直接アクセス出来ない。駐車場に車を預け、砂浜を歩いて近づくしかアプローチの方法は無い。白浜を訪れた際は是非足を伸ばしてみても如何でしょうか。(取材 萬羽)



円月島



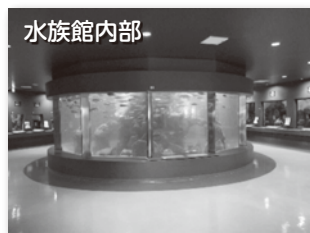
円月島

## 京都大学白浜水族館 ～熱帯亜熱帯海洋生物の北限～ (白浜町)

一般に水族館は地方自治体の附設施設が多いが、なんとここは京都大学が運営する水族館。何故かという、白浜沖には黒潮が蛇行して流れており、熱帯・亜熱帯の生き物が流れ着いてくるそうで、熱帯・亜熱帯の生物分布の北限となっているそうです。従って海産の生物を研究する絶好の場所と言うことになるそう。そこで展示されているのはここ白浜周辺に棲んでいる動物・魚の展示にこだわっているそうです。ここは瀬戸臨海実験場として大正11年(1922)に開設され100年の歴史を誇るが、開設7年後の昭和4年(1929)、海洋生物の研究者でもある昭和天皇が御行幸でここを訪れた事がある。当時県は上を下への大騒ぎだった様で、白浜の地が全国的に知られる発端となったそう。また御行幸の際、粘菌の研究で知られる“知の巨人”南方熊楠が御進講を務めたが、この際生物標本を桐箱ではなくキャラメルの箱に入れて献上されたという逸話も残されている。(取材 萬羽)



京都大学白浜水族館



水族館内部

